「不当請求」専門の弁護士横行

時効成立後に取立「提訴する」と脅迫まがいも

貸金回収を専門にする弁護士は多いが、とうに消滅時効が成立し、返済義務のなくなった借金を、「滞納をこれ以上待てないから訴える」「期日まで連絡がない場合は貯金や不動産を差し押さえる」と脅し、強引に回収を図る弁護士が増えている。

借りたものは返すのが筋だが、消滅時効が成立してのち数年以上が経過した段階でやってくる突然の弁護士からの請求、時間が経っているから損害金が莫大に増えているケースばかりで、元金の残高が20万円であるのに対し、損害金が50万円を超えているものもあり、債務者をひどく困惑させている。多くが弁護士法人化された弁護士事務所からのもので、悪名高いと言う民法上、「裁判の中で消滅時効が成立したから払わない」と主張しなければならない建前があり、債権者の消滅時効成立後の弁済請求自体が禁止されているわけではないところに問題がある。

時効進行がリセットされる仕組み

そして債務者が債務を認めたり1円でも支払に応じれば時効の進行がリセットされ、損害金を含めて全額の弁済義務が復活してしまうことを知らない債務者が多い。法律の専門家である弁護士が一般人の「認識不足」を承知で、請求を起こしている構図がうかがえる。「税務処理上必要だから、残高確認書にサインして返送するように」と求めてくる悪質なケースがあるが、これも全額の弁済義務を復活させる手法であり、違法ではないとはいえ、債務者を再び追い込む詐欺的手法としか言いようがない。弁済できていない債務者の心の負い目につけこんだ悪徳行為であるといえよう。

専門知識を悪用する弁護士の存在

未払金の回収を弁護士に相談した場合、「消滅時効が成立している」と回収は困難である」として依頼を引き受けないことが圧倒的に多いが、その一方で消費者金融の回収には消滅時効が成立していても積極的に回収を引き受けている。

消費者金融やカードの支払いを焦げ付かせる債務者は弁護士などの専門家には相談しないことを見越して請求をしてきると弁護士とはいえ、もう、正義の味方どころか専門知識を悪用する悪辣な弁護士としか評価できない。

弁護士事務所に連絡して弁護士本人を指名しても、弁護士職員が対応することは弁護士倫理に反するものだ。

消滅時効成立後も繰り返される請求

また、未回収の債権は、債権買取業者間で譲渡が繰り返されるのが常で、かつて消滅時効成立で支払拒否したものが、数年後に別の弁護士名で請求が来るケースも横行している。国も弁護士会もこれらの事実を把握していながら手を打たずに放置したままであることは、重大な問題であるとの声が上がっている。

元はといえば借りたものを返せない債務者に非があるのだが、消滅時効が成立したら弁済義務がなくなるのは民法で定められている。借りたものを返すべきであることも、一定の条件がそろえば返す必要がなくなることも両方とも民法の定めだ。法律の専門家である弁護士が、法律に関する知識を悪用している実態は改善されねばならないだろう。

弁護士から送られた時効を過ぎた債権の通知書。「期日までに連絡ない場合は貯金・不動産を差し押さえる」と書かれている。

新連載　ローカル小説

「退屈な人」後編　草野くれよん

11月号の続き

「さっき家を出たよ。いまは京成電車に乗ってる」

最寄駅から乗ってる大森台駅から京成千原線に揺られながら、千夏はナミコにDMで知らせる。最初は車で行くつもりだった。大規模ショッピングモールで買い物をしようか、お洒落なカフェでランチしようかと、色々なアイデアを思い巡らせていたのだが、「夫の所有物を持ち出すと、あとあと面倒なことになる」とナミコに忠告された。本当に家出するつもりはないのだから夫名義の車でも構わないはずだったが、たまには電車に乗るのもいいかと思い、ナミコの言葉に従ったのだった。

「京成って、どこまで行くの？」

「いま乗ってるのは津田沼行き。幕張本郷で総武線に乗り換えようと思ってるけど」

「そこから先はどうするつもり？　泊まるところとか」

「都内のホテルにでも行こうかと。もらいものの半額クーポン持ってきたから」

「悪くないけど、長期戦向きじゃないね。何だったらウチに来る？　家出しろと勧めた手前、私にも責任があるからさ。ウチに来なよ。千葉からだとちょっと遠いけど」

ナミコの誘いに対し、千夏はしばし返事を躊躇った。夫婦間のぎくしゃくしている家庭にお邪魔するのは気が進まなかったこと、リアルで顔を合わせたら高志の変態行為として並べたてた事柄が狂言だとすぐ見抜かれてしまう予感がしたこと。どちらか一つでもお断りする理由として十分だと思い至ったのだが、返事を書く前にナミコから続きのメッセージが届く。

「ちなみに亭主は最近ほとんど家に帰ってこない状態。私の一人暮らしみたいなもんだから気兼ねはいらないよ」

事実上の別居状態になるまで拗れてしまっているのかと、ナミコもさぞや神経のすり減るような思いをされていることだろう。自分のケースは嘘だったと正直に告白して謝り、お詫びに添い、力になってあげるべきなのではないだろうか。

そんなふうに思い直し、「ナミコさんの家はどこなの？」と聞いたが、その答えが届く前に電車が幕張本郷駅に到着していた。

ホームから階段を登り、改札を抜ける。乗り換え先の総武線ホームに向かおうとして、千夏はギクリとして立ち止まった。

「高志さん……」

零れ落ちそうなほど丸くした目が捉えているのは、いつもの穏やかな表情を浮かべた夫だった。

「さて、行き先は都内のホテルだったっけ」

それとも他に行きたいところがあれば、そこでもいいよ。どうする？」

家に帰る車の助手席で、千夏はこれでもかというほどに身を縮めていた。

運転席の高志を窺うと、そのかすかな視線を感じたのか、高志は前を向いたまま誤解きを始めた。

「本当に偶然なんだけど、これ千夏じゃないかというSNSアカウントを見つけてさ。フォローしてしばらくつぶやきを読ませてもらって、確信した。ぼくの知ってる千夏の内容が完全に一致していたからね」

「うう、う……ごめんなさい」

「いや、ナミコになりすまして、いろんな話を捏造したことは悪かった。千夏が面白がってくれればという一心だったんだ」

けれど、と高志は横目でチラリと千夏を見やり、ふふっと笑った。

「まさか千夏も乗ってくるとは思わなかったよ。ぼくにいろんなキャラの色付けをしてさ。ダンゴムシに女装趣味に、あと何だっけ？　あ、そうだ、腹踊りか」

「あ、あれは……その、全部嘘だから」

「もちろんわかってるよ」

苦笑して高志は続けた。「君がだんだんソワソワと落ち着かなくなっていたので、何か企んでいるなとは気づいたよ。だったら実際に行動してもらおうかと、逃げ回るのを出ろと繰り返して焚き付けたのだ。」

「だけどそれ今回の罰として、一つだけペナルティを科す。覚悟してね」

「え？　……いいけど、何をすれば」

信号が赤になり、車が止まった。その瞬間、高志がスマートホンをポケットから取りだし、レンズを千夏に向ける。口の端がニヤリと歪むのが見えた。

「腹踊りの動画を撮って、SNSにアップするのさ」。

「勘弁して！」

「勧いかな。架空の設定をやり取りしているうちに引っ込みがつかなくなった。千夏もそうだったんじゃないの」

真っ赤な顔で小さく頷くと、高志は声を出して笑った。

「……ナミコって名前は……どこから」

千夏がそう聞くと、肩を竦めた。

「平穏な日常に波乱がほしかったんだろ？　だから「波乱」の波を取ってナミコ」

千夏はぎゅっと目を瞑った。そんなの、わからないよ。ただ、高志がちっとも退屈な人なんかじゃないことはわかった。むしろ逆の、変な人だった。今まで見誤っていてごめんなさい。言葉にはできなかったが、心の底から詫び

完

著者　草野くれよん
千葉市の稲毛生まれ稲毛育ち。稲毛在住。筋金入りの稲毛者。好きなパンはマロンド。好きな芸能人は中尾ミエ。好きなお菓子は万祝餅（まいわいもち）。愛読書は稲毛新聞。

モノレールストーリー　モノレールになぐさめられたいの

吉成 庸子

買い物帰りに少し回り道をして近くの公園の辺りまで歩いてみる。いちょうの木が黄金色の葉をびっしりつけていて風が少し吹くとハラハラリと一枚ずつ舞いが降りている。何故か心が和む気がした。そして思い切って夫の転勤に付いて、ここ千葉市の近くの街に引っ越してきて本当に良かったと思うのだった。

美和子は今年四十一才になった。夫の良夫とは小学校からの同級生だ。高校、大学と美和子は女子だけの学校へ行ったが、二人の交際は仲間も交じえて続き二十七才になった時、仲間から祝福される形で自然に一緒になった。

二人共、熊本生まれの熊本育ちだった。良夫は鉄鋼関係の会社に就職。美和子は宣伝会社で事務職に就いた。良夫に不思議と大きな転勤がなかったのも幸いして美和子も仕事を続けていた。

二人に子供が出来ない事を心配した親達が、何かとうるさく言い出したのは二人が三十歳になった頃からだった。特に良夫は姉と妹がいるが男の子は一人だけ。だから、良夫の母親は「跡継ぎがいないと困るんだよ。仕事やめて子供作りに専念して欲しいんだけど」とか「一度二人で病院行ってみたら」等とうるさい。

それを耳にした美和子の母は「子供は神様のさずかりもんだ。いちいち、うるさく言うのは悪いよ」と言いながらも近頃は「高齢出産は母にも子にもよくないと言うやないか？病院で検査してもらうのもいいね」なんて、口にするようになっていた。

四十歳近くなった春、二人でとうとう検査に通った結果、良夫には悪い点は全くなかったが美和子の方に原因があるとお医者様から言われた。

まるでうつ病みたいになってしまった美和子を良夫は「子供なんていなくてもいいじゃないか」と励まして、いつもよりずっと優しく接してくれた。これを機に美和子は勤めもやめ家にいるようになった。

「犬を飼おうよ」良夫の提案で可愛い白い子犬を飼った。美和子は犬に夢中になり本当によく面倒を見た。ジョンと名付けられた子犬は、よく鳴き声を出すし、家中を走り回るので夫婦を悩ますことはあった。

美和子が元気になったので、良夫は安心したらしい。友人達と飲んで帰る日も多くなったが美和子はジョンがいるので淋しくはなかった。

そんな日々が続いているうちに、いきなりが生活の中心にはなった。

美和子はモノレールに乗って暇な時間に千葉にあるカルチャースクールに通い出した。子供の時から好きだった絵のグループだった。同年代の友達も何人か出来、ジョンを相手の時間も一層むつまじいし、美和子は今日一日が過ぎていた。

特にモノレールが好きで、時間がある時は何度か繰り返し乗った。

いちょうの葉もすっかり落ちて、その年もあと数日で終わるの夜だった。珍しく定時で帰宅した良夫に美和子がいきなり頭をなぐられた気がして聞き直す。

「すまないと思っている。決して美和子と別れたくはない。でも僕に子供が出来たのは本当だ。今八カ月になるかな」「相手は、相手の女はどんな人？」美和子は悲鳴に近い声で問い返した。

「会社の近くのスナックに勤めている女の人だ。二十五歳かな？申し訳ない。ちょっとしたはずみで、そんな関係になってしまったんだが、美和子がその子供を引き取って育てると言うなら、なんとか向こうを説得して子供だけ引き取る。僕はどっちでもいい。美和子の気持ちに従うよ」

良夫は淡々とそう言ったが、美和子の胸の中は今まで味わった事のないほど、混乱していた。苦しいし、悲しかった。

いきなり立ち上がった美和子に良夫は叫んだ。「どこへ行くんだ」と心配しないで。ゆっくりモノレールに乗って、どちらにするか考えてみる。モノレールにゆっくり揺られて空の上から地上を見る。冷静な判断がきっと出来ると思うから」。

別れるしかないと美和子の心は決まっていたけど、何だか無性にモノレールに乗りたかった。

随筆　家にいるのもなかなかつらい

吉成 庸子

朝から太陽が美しい光をそそいでくれていた。良持ちの良い晩秋の空気を思いきり胸の中に吸い込んだ。

亭主の儀ちゃんが、出勤したばかりだった。「今日は、夜宴会があるから飯はいらないよ」と彼は言って出勤して行った。「さあ、これからの時間何をしてすごそうかなあ」私は一人言を言いながら、玄関から茶の間に戻った。その時いきなり電話が鳴った。急いで電話機を取ると儀ちゃんからだった。

「お母さん、ズボンのベルトしてくるの忘れた。すぐ銀行の受付まで届けてくれ」

「ベルト忘れるなんてバカねえ。手でおさえていれば」「仕方ないの？」「バカ者、常に上着を着てるんだぞ。しょっ中ズボンが落ちない様にしてるなんて、みっともなくて出来ない。」

タクシー呼んですぐ持って来なさい。」「なんだ、その言い方は！　こっちは真剣にたのんでるんだぞ、文句言ってる暇があったらすぐタクシー呼べ」「わかりました。あっそれよりベルト？　いっぱいあるからわかんないよ」「それは心配ないった。俺の机の上に出した店等年中無休だった。朝七時半から店を開ける喫茶店から深夜二時まで営業するクラブ等を何軒かやっていた。新宿でやっていても新鮮にみえる。デパートが開いたので、ちょっと近くのデパートの喫茶店に入りでついて行った。久しぶりお酒も少し飲んで家に帰った。家の中の電気がついていない。おかしいなと思いながら茶の間の机の上に目をやると、たしかにベルトが一本置いてある。「あっわかった。ずぼ行くからね」私は、最初はめんどくさいなあと思っていたが、ベルトを紙袋に入れて、外出着に着替えたあたりから急に楽しみがわいてきた。

久しぶりの外出だった。何しろ私は結婚するまで三百六十五日、家に居た事のない人間だった。朝七時半から店を開けるくの喫茶店に入りデパートのあくのを待った。家の中のせいか、何でもそいそと乗った。

銀行の受付の方にベルトを届けると近くのうよ」と言われ、喜んでついて行った。久しぶりお酒も少し飲んで家に帰った。家の中の電気がついていない。おかしいなと思いながら茶の間の夜、そんな生活を続けてきた私が、店全部を辞めて結婚専業主婦となったのだ。たまには外の空気が大きくなっていたのだろう、目につく服をすぐ買ってしまう。その時「ヨーコちゃん」と声を掛けられた。私が結婚前から知っていた少年上の女友達だった。

「あーら久し振り」から始まりお昼御飯を用意してすぐ後ちゃんの前に置いた。「着物の展示会をしているお店があるから」と誘われて同行。「夕飯も一緒にしようね」と言われ、喜んでいた。「あれお父さん今日遅くなるんじゃなかったの？」「相手方が急病で延期になったんだ、俺は晩飯も食ってないんだぞ！」「ごめんすぐ作ります」。

私は玉子かけ御飯を用意してすぐ後ちゃんの前に置いた。冷えたビールもつけてネ。結婚二年目位の晩秋の一日の話

千葉みなとから熱海へ！高速ジェット船が出港！

先月26日（土）、27日（日）に千葉みなとから高速ジェット船で直接熱海港に向かう新しいスタイルのツアーが催行された。

従来は千葉市内から熱海へ行く場合、総武線、京葉線等で東京駅へ、そこから新幹線や東海道線を利用するケース、またはマイカーがほとんどであったが、このツアーは電車の乗り換え、交通渋滞といった煩わしさが一切なく2時間弱で熱海へ。快適な海の旅が満喫できた。

熱海周辺の名所を回り温泉を堪能、翌日再び熱海港から直接千葉みなとへ帰ってきた。千葉市内在住のある参加者は「千葉県民はどこに行くにもまず東京へ出る必要があるが、これはその必要がないし、移動が船というのが斬新。今度は家族で来てみたい」と話した。

このツアーを主催した名鉄観光サービス（株）では利用客の声を反映し、また新たな企画を検討するという。

★信頼の証
千葉県弁護士協同組合特約店
ひとりで悩まないで
浮気調査
お客様体験談
秘密厳守
基本料金33,000円（経費別途）
一都七県弁護士協同組合特約店
ご相談無料
0120-487-870
【千葉本社】
株式会社愛晃（アイコウ）リサーチ　千葉市中央区中央2-8-5 ジュピタービル8階

1964年創業
今も昔も変わらないのは
お客様とのふれあいです
これからも私たちは地域の
お客様の笑顔と共に
成長し続けられるよう
努力いたします。
株式会社 オオクシ
http://www.ohkushi.co.jp

スタッフ募集
一緒に働きませんか。
現場の清掃や後片付け、事務補助など
空いた時間に出来る簡単なお仕事です。
資格●明るく元気な方
時給●９００円～
年齢・経験など考慮
時間●シフト制
事業内容●外壁塗装・内外装リフォーム業
応募●お気軽にお問合せください。
近隣の方歓迎です
屋根・外壁塗装・内外装リフォーム専門店
株式会社　四葉建装
TEL.043-488-5671
〒284-0043 四街道市めいわ 2-6-10

「りょうえん葬儀」
稲毛陵苑でご利用いただけます。
一日葬 311,300円（税込）より
二日葬 426,800円（税込）より
新型コロナウイルス感染予防の取り組みについて
当苑では新型コロナウイルスのさらなる感染拡大を防ぐため、その予防に努めております。現在職員は従業員としてマスク着用をいたしております。また、ご葬祭・ご整列・ご見学の時さまにおかれましても、当社でのアルコール消毒やマスク着用にご協力をお願い申し上げます。ご見学いただく際には、一組ずつの個別対応をさせていただいております。通常はコントランス・霊柩ともにゆとり時間空間となっておりますので、他の葬家様との区画間距離を大きく取ることが可能です。また空調・換気にも気を配っておりますのでご安心して来場ください。
稲毛駅からすぐ、お気軽に手ぶらで室内参拝
利便性
●駅近で専用駐車場も完備
●手ぶらで参拝（線香・お花不要）
●室内のため天候を気にせず参拝
趣き
●緑・水・光を感じられる参拝環境
●和型・洋型の選べるお墓スタイル
●くつろぎの屋上庭園・ラウンジ
安心
●プライベート空間を保つ参拝環境
●オリジナル納骨堂方式（トヨタL&F製）
●最新耐震構造でご遺骨を収蔵
【注意事項】葬儀の運営については、各提携先（葬儀社）に委託します。
稲毛陵苑は檀信徒施設となりますので、当山僧侶がお勤めいたします。
※別途冥加金をお納めください。詳細は職員にお問合せください。
ＪＲ稲毛駅徒歩３分
京成稲毛駅徒歩５分
無料駐車場 30 台完備
これからの供養のかたち
葬儀・納骨・法事すべて執り行えます
開苑時間／ 8:00 ～ 18:00 年中無休（365 日開苑）〒263-0031 千葉市稲毛区稲毛東 3-7-5
稲　毛　陵　苑　☎043-388-0559
宗教法人毘沙門堂／稲毛陵苑概要　●一階／管理事務所　二階／本堂・副本堂・法事室　三階／納骨堂（福信徒向け施設）●許可番号：千葉市保健所第 29-1 号

次回発行日　1月6日（金）

身近な情報はメール・FAXでお寄せください